



画像診断：重要所見・偶発所見の扱い

昭和大学藤が丘病院 放射線科
診療科長 橋本 東児

放射線診断医の仕事は、画像検査の管理や報告書の作成、MR治療が主です。その多くは当科の診療録を発生せずに行うので、なかなか目立たない存在ではないでしょうか。専門医6名と専攻医1名で、CT、MRI、核医学などの報告書を年間45,000件ほど作成し、500件ほどのMRをお引き受けしています。今回は、画像診断報告書における重要所見や偶発所見の扱いをご紹介します。

CTやMRIなどの多断面の画像検査では、目的以外の部位にも指摘すべき多数の所見に出会います。記載すべき所見も多く、依頼医が情報を取捨選択するのは煩雑な作業です。また、放射線科医が気づけない異常もありますが、幸い当院では、放射線科医と主治医間でフィードバックをかけあう文化が醸成され、画像診断に係るエラーの軽減につながっていると思います。藤が丘病院の先生方の日頃のご協力に感謝申し上げます。

画像診断報告書の確認不足について2017年夏頃から一般報道に複数取り上げられました。事故調査委員会の提言では、報告内容が主治医に確実に伝わる方法が求められています。当院では病院の方針により、それまでの報告書開封の徹底に加え、2017年末から重要所見と偶発所見に関して、放射線科医が依頼医に直接電話連絡することになりました。報告書作成の際のテープ起こし役のトランスクリバラーにも連絡業務に加わってもらっています。連絡した履歴をもとに医療安全管理室の方々が、依頼医の対応状況を全例確認し、必要な場合にはフィードバックをかけていただいています。

事務が関わらない報告書の未開封率は、他施設の報告で



は7~15%程度みられるので、事務の手助けのある当院の運用に比べ、大きな差があります。当院の救命CTで1年間に撮影された7,387件を調べると、放射線科から連絡した症例は122例(連絡率1.6%)で、その全例で追跡確認がされています。専門科へのコンサルトや追加検査例は全体の1.2%、治療方針変更例は0.74%でした。対応すべき偶発所見32件のうち、約8割が腫瘍関連でした。見過ごすことのできない病変数ですが、いずれも適切に対処されていました。対応されている先生方のご理解に加え、医療安全チームなど事務系の方々の地道なご努力にも感謝申し上げます。医療貢献度の高いこのような事務業務に対して、加算を付けるなど診療報酬上での優遇があってもよかろうに、と切に思います。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。現在人員欠乏のため、各方面に多大なご協力をいただいておりますこと、この場を借りて心よりお礼を申し上げます。

臓器機能温存・形態温存可能な癌治療を提供

藤が丘病院 放射線治療科
診療科長 今井 敦

藤が丘病院放射線治療科は、2016年12月に最新の治療器に更新し、放射線(エックス線と電子線)により、主に悪性腫瘍に対し侵襲の少ない治療を行っております。

《診療体制》

常勤2名の日本医学放射線学会放射線治療専門医・診療放射線技師・看護師・受付事務員によって診療業務を行っています。また、昭和大学病院に在籍する医学物理士に高精度放射線治療の計画立案や品質管理についてのアドバイスを受けています。



放射線治療室内と放射線治療装置(直線加速器)

やりがいのプラス

藤が丘リハビリテーション病院

看護部 次長 松本文栄

治療方針や具体的な照射方法・照射線量については昭和大学関連病院（昭和大学病院・昭和大学横浜市北部病院・昭和大学江東豊洲病院）の放射線治療科と毎朝遠隔で合同のカンファランスを行い、検討・情報共有を行っています。

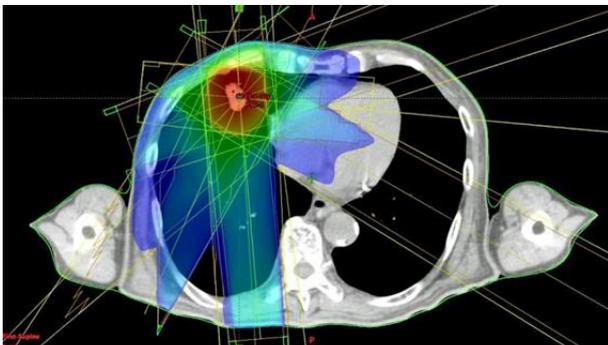
外部照射装置（リニアック）（1台）と治療計画用CT（1台）を使用し、強度変調放射線治療・定位照射など高精度放射線治療を含めた治療を行っています。

《診療領域》

放射線治療の対象疾患は、悪性腫瘍のほかケロイドなどの良性疾患に及びます。とくに悪性腫瘍に関しては、ほぼ全ての診療科の疾患に対し、「治癒を目指す治療」や「症状を緩和する治療」を行っています。放射線治療の歴史は長く、レントゲンによるX線発見後すぐに治療として使用されていたとの記録がありますが、近年とくに注目されているのは「低侵襲」であるという点です。以下の治療によりさらに患者さんにやさしい治療を提供しています。

◇定位放射線治療

多方向から腫瘍に集中させて放射線を照射する方法です。もともとは固定がし易い頭部への照射から始まったものですが、「画像誘導照射」や「4次元（3次元+呼吸性移動）照射」の技術を駆使し、肺や肝臓への適応も広がりました。藤が丘病院では主に初期肺癌に対し治療を行っています。



高精度放射線治療の一つ、
肺がん定位放射線治療の治療計画図の一例

◇強度変調放射線治療

照射範囲をコンピュータ制御で腫瘍の形に合わせ変化させることで、腫瘍部分への集中した照射を行います。これにより正常組織の照射線量を抑えることができます。主に前立腺癌・頭頸部癌で使用されます。

コロナ禍の中、医療従事者にたくさんのエールが届き励みとなりました。私たち看護職は、誇りと使命感を持って現場で頑張っています。しかしながら、新型コロナウイルス感染症により医療従事者に向けて差別や偏見があったことは残念な思いでした。私自身は、仕事に行き詰まった時「何を目指して看護師になったのか？」と自分に問いかけて、初心を思い出すようにしています。

私は、整形外科の看護師になりたいという思いを胸に看護学校に入学しました。高校生の時に怪我で部活の練習ができなかった間、みんなと一緒に練習できないことに皆との距離を感じ、孤独感でいっぱいでした。自分と同じような思いをしているスポーツで怪我をした人を支えられる仕事をしてみたい。それが私にとっての看護師を目指した理由です。しかしながら、看護学校卒業後は整形外科を希望しないまま現在に至っております。今年度よりリハビリ病院へ異動となったのも何かの縁と思っています。

4年毎に部署異動をし、たくさんの診療科を経験致しました。異動に対してはネガティブではありませんでしたが、異動した当初は上手く動けない自分に落ち込み、辛い日々の連続でした。今すぐ辞めたいと思ったけれど、1年という単位は全うしようと心に決めて仕事を続けました。3か月を過ぎる頃には環境にも慣れ、自分の経験したことが役に立つ機会も増え、モチベーションが上がります。やる気になれば、当初の目標1年はあっという間だということが経験上わかりました。

そして、たくさんの患者さんと向き合い、支えることの難しさを感じながら、看護のやりがいを感じることもできました。それと同じように、悩みを抱えたスタッフと向き合い支えることにも、やりがいを感じるようになりました。「何を目指して看護師になったのか？」の問いに「現場で働く看護師の支えになりたい」がプラスされました。



ベスト指導医

昭和大学では毎年、医師臨床研修センターにより学内臨床研修病院（基幹型4病院、協力型2病院）のベスト指導医選出を行い、医学部同窓会で表彰しております。今年も2019年度採用研修医が2年間の臨床研修で評価した指導医評価をもとに、各病院のベスト指導医が選出されました。

今年度、藤が丘病院のベスト指導医に選ばれたのは、内科（糖尿病・代謝・内分泌）の橋詰真衣助教です。2021年7月現在、育児休業を取得されていますが、育児のさなか、臨床研修指導における心掛けを寄稿してくださいました。全医師、コメディカル臨床研修指導者には日々の研修指導の参考にしていただければ幸いです。

なお、今年度、藤が丘リハビリテーション病院ではベスト指導医の基準を満たす先生はいませんでした。

必要時に専門医に紹介できるよう、基礎知識を持ってもらうこと」です。実際に患者さんとお話して診察し、検査結果を見て治療を組み立てるという経験は、何物にも代えがたく、忘れがたいものなので、治療方針などをできる限り一緒に考えることを大切にしています。

研修医の先生方には、糖尿病を始めとした様々な疾患について事前に解説し、一人一人の患者さんの病態について共に考えます。特に糖尿病は、人によって病態が異なり、治療方法も大きく変わります。毎日のカンファレンスの中で、必要な検査や治療を共に考え組み立てるようにしています。そのため、些細なことも質問・発言しやすい雰囲気を作ることも心掛けています。

また、我々の診療においては、患者さんの問診や身体診察が非常に重要です。その中で、患者さんのお話をよく聞き、共感する医療者としての姿勢も学んでもらいたいと思っています。

ベスト指導医に選ばれて

藤が丘病院 内科（糖尿病・代謝・内分泌）

橋詰 真衣

今回ベスト指導医に選んでいただき、大変驚き、光栄に思います。普段の研修医への指導や、心掛けていることをお話しさせていただきます。

当科では、主に糖尿病と、甲状腺や下垂体・副腎疾患を代表とする内分泌疾患の診療をしています。スタッフは外来と入院診療を行う一方で、研修医・専攻医の教育・指導を行っています。研修医の先生方は入院診療の班に入り、様々な疾患の患者さんをスタッフと一緒に診療しています。糖尿病については、1型糖尿病・2型糖尿病のほか、妊娠糖尿病やその他の二次性糖尿病も幅広く診療します。内分泌疾患についても、甲状腺疾患の放射性ヨウ素内用療法や、副腎疾患や下垂体疾患の内分泌学的な負荷試験などを行います。

研修医の先生方は研修修了後、様々な科の医師となるので、必ずしも内科医療に従事するとは限りません。しかし、糖尿病の患者さんにはどの科でも必ず出会います。内分泌疾患の患者さんも、頻度は低くとも他科でも出会うことがあり、内分泌疾患を疑って診察し、必要時に専門医に紹介することは非常に重要です。

従って、私の指導の第一の目標は、「糖尿病の基本的な知識や診察・検査を身につけ、治療を知ってもらうこと」と、「内分泌疾患の患者さんに出会ったときに疾患を想起し、

2021年度病院ワークショップ開催

6月19日（土）、藤が丘病院にて2021年度病院ワークショップが開催されました。病院ワークショップとは、病院の第一線を担う中堅職員が中心となって、病院をより効果的・効率的に運営するための具体的な方策を検討・提案するものです。テーマに沿って医師・看護師・薬剤師・診療放射線技師・臨床検査技師・事務員等多職種で構成されたチームが編成されました。藤が丘病院、リハビリテーション病院をより良い病院へと発展させるために、各チームとも、職種横断的な討議が活発に行われました。



（藤が丘病院 管理課 古藤 瑤子）

第39回藤が丘地域連携フォーラム

7月8日（木）、第39回藤が丘地域連携フォーラムを開催いたしました。本フォーラムは新型コロナウイルスの感染状況を鑑み、昨年度よりオンラインでの講演としてい

ます。今回の藤が丘地域連携フォーラムは、ご多忙の中、44施設59名の医療機関の先生方等院外関係者の皆様、医師等院内関係者40名の総勢99名の方にご参加いただきました。皆様方には心より御礼申し上げます。

る大変賑やかな笹飾りになりました。長い自粛生活が続いていることから、新型コロナウイルスの終息や平穏な生活の回復を願う短冊が多く見受けられました。皆様の願い事が叶いますよう、ささやかながら祈っております。

(藤が丘病院 管理課 大内 裕愉)

第39回藤が丘地域連携フォーラム講演会

1. 「貧血の診かた」

昭和大学藤が丘病院 内科(血液) 酒井 広隆

2. 「未破裂脳動脈瘤とくも膜下出血」

昭和大学藤が丘病院 脳神経外科 津本 智幸

(藤が丘病院 医事外来課 高橋 美保)

次回は2021年10月14日(木)に開催を予定しておりますが、開催方法につきましては、今後の新型コロナウイルスの感染動向を注視しつつ検討してまいります。皆様方のご参加を心よりお待ちしております。

2021年度市民公開講座

2021年度第1回目の市民公開講座は、新型コロナウイルス感染症の蔓延状況を鑑み、初めての試みとして7月26日より8月31日までWeb媒体で開催としております。今回は『健康と暮らし』というテーマのもとに、藤が丘病院呼吸器内科の横江 琢也准教授より『新型コロナウイルスについて』と、藤が丘病院薬剤部の米澤 龍助教より『ポリファーマシー ~そのお薬本当に必要ですか~』についてそれぞれご講演いただきました。内容もわかりやすく、より多くの方に医療の知識を身近に感じていただけたのではないかと感じております。

また、1か月という短い期間ではありますが、たくさんの方にご視聴いただいております。アンケートでみなさまから頂戴したご意見を次回以降の開催の参考にさせていただきます。

今後とも、様々な手法を試みながら、この状況下においてもみなさまに楽しんでいただけるコンテンツを提供していきたいと考えております。

(藤が丘病院 管理課 山田 大暉)

七夕 ~短冊に願いをこめて~

今年も藤が丘病院・リハビリテーション病院ともに、1階に笹飾りを設置しました。

また、昨年に引き続き短冊回収BOXを設け、多くのご来院者さまに短冊を記入していただきました。色とりどりの願いを込めた短冊が揺れ



診療統計 2021年6月・7月

	藤が丘病院		リハビリテーション病院	
	2021年6月	2021年7月	2021年6月	2021年7月
外来患者数	22,758人(875.3人/日)	22,741人(874.7人/日)	4,525人(174.0人/日)	4,437人(170.4人/日)
入院患者数	14,315人(477.2人/日)	14,356人(463.1人/日)	5,124人(170.8人/日)	5,072人(163.6人/日)
紹介率	76.7%	75.4%	70.3%	75.3%
逆紹介率	88.4%	88.9%	87.7%	78.6%

〈広報・公開講座委員会委員〉

森岡 幹 川手 信行 原田 浩史 鈴木 洋 佐々木 春明 今井 敦 市川 度
 中田 土起丈 小岩 文彦 西村 栄一 小林 孝弘 泉 紀子 前田 うづみ 佐藤 美津恵
 山寺 志保 黒田 上総 岡部 圭吾 門田 美佳 山田 大暉 高橋 良治 (順不同)